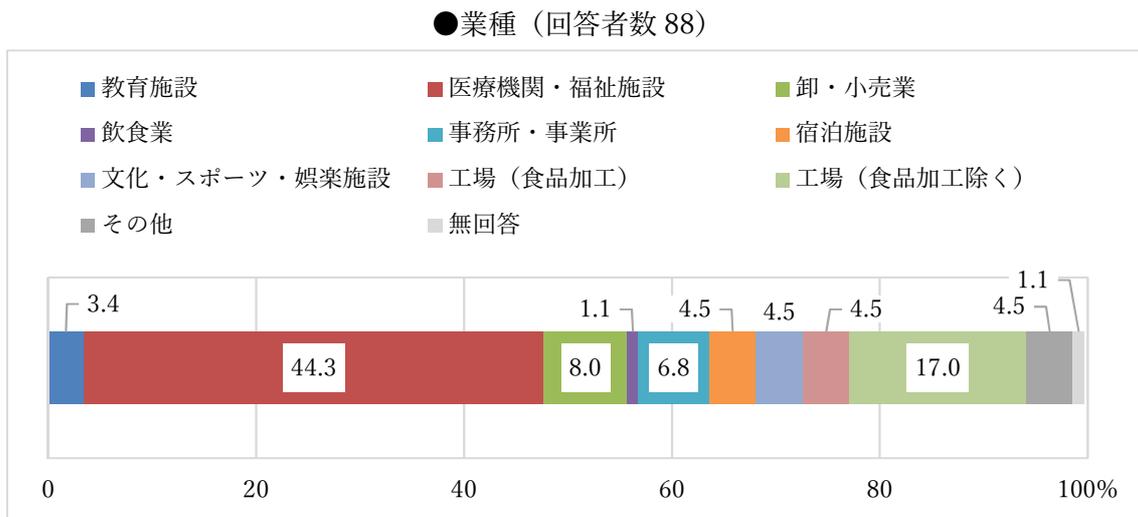


第 3 章 調査結果（事業所）

1 属性項目

問1 業種

回答のあった事業所の業種は「医療機関・福祉施設」が44.3%と最も多く、次いで「工場（食品加工除く）」（17.0%）、「卸・小売業」（8.0%）、「事務所・事業所」（6.8%）となっています。



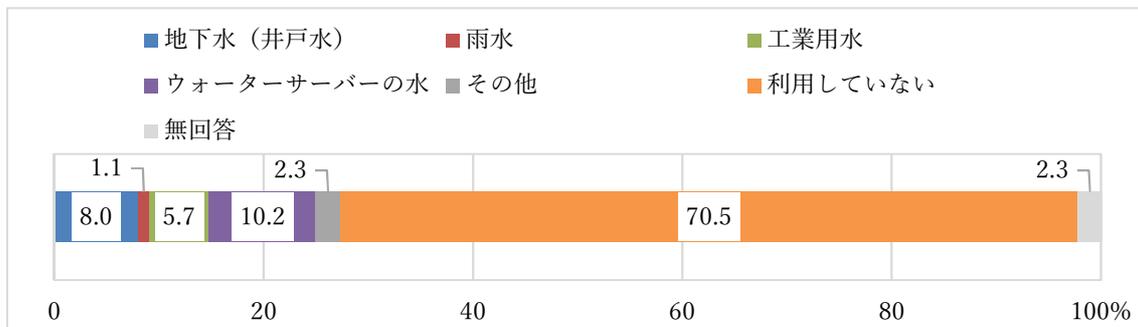
2 水道水以外の水について

問2 水道水以外で主に利用している水

水道水以外で主に利用している水は「ウォーターサーバーの水」(10.2%)、「地下水(井戸水)」(8.0%)、「工業用水」(5.7%)、「雨水」(1.1%)となっています。なお、「利用していない」(70.5%)が大半を占めており、「再生水(下水処理水)」は回答がありませんでした。

業種別にみると、工場(食品加工)で「地下水(井戸水)」、教育施設、宿泊施設で「ウォーターサーバーの水」と回答した事業所の割合が高くなっています。

●水道水以外で主に利用している水(回答者数88)



●水道水以外で主に利用している水(業種別)

	回答者数	地下水(井戸水)	雨水	工業用水	ウォーターサーバーの水	その他	利用していない
教育施設	3	-	-	-	1	-	2
医療機関・福祉施設	38	3	-	1	2	2	30
卸・小売業	7	1	-	1	1	-	4
飲食業	1	-	-	-	-	-	1
事務所・事業所	5	-	1	-	1	-	3
宿泊施設	4	-	-	-	2	-	2
文化・スポーツ・娯楽施設	4	-	-	-	-	-	4
工場(食品加工)	4	2	-	-	-	-	2
工場(食品加工除く)	15	1	-	2	2	-	10
その他	4	-	-	1	-	-	3

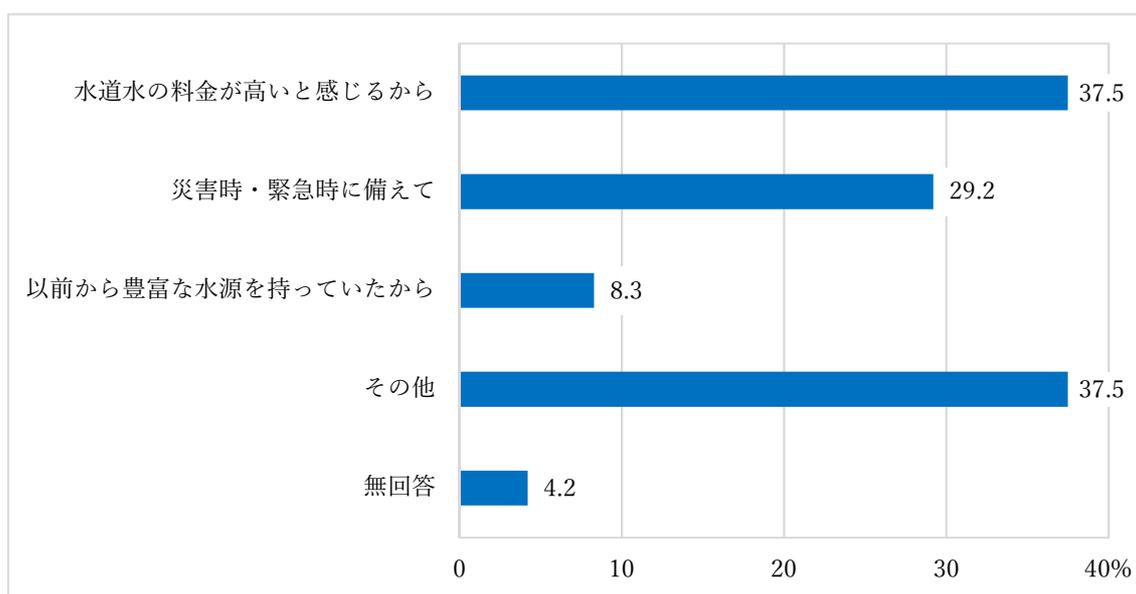
※サンプル数が少ないため参考値とします。

問2-1 水道水以外の水を利用している理由（複数回答）

問2で水道水以外を主に利用していると回答した事業所の理由は、「水道料金が高いと感じるから」と「その他」が37.5%で同率でした。「水道水以外に豊富な水源を持っていたほうが安心だから」は回答がありませんでした。

利用している水の種類別にみると、地下水（井戸水）を利用している事業所は「水道料金が高いと感じるから」が多く、ウォーターサーバーの水を利用している事業所は「災害時・緊急時に備えて」が多い結果になりました。

●水道水以外の水を利用している理由（回答者数 24）



●水道水以外の水を利用している理由（利用している水の種類別）

	回答者数	水道水の料金が 高いと感じるから	災害時・ 緊急時に 備えて	以前から 豊富な水 源を持っ ていたか ら	その他
地下水（井戸水）	7	6	2	1	1
雨水	1	-	-	-	1
工業用水	5	2	-	1	2
ウォーターサーバーの水	8	-	5	-	4
その他	2	1	-	-	1

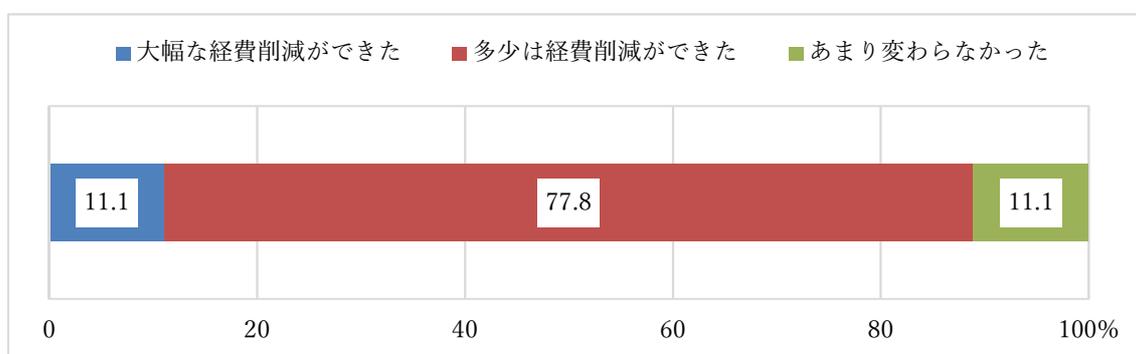
※サンプル数が少ないため参考値とします。

問 2-2 水道水以外の水を利用することによる経費削減状況

問 2-1 で水道水の料金が高いと感じる事業所が、水道水以外の水を利用することでどのくらいの経費が削減できたかについて、「多少は経費削減ができた」が 77.8%と最も多く、「大幅な経費削減ができた」と「あまり変わらなかった」は 11.1%で同率でした。「経費が増加していた」は回答がありませんでした。

利用している水の種類別にみると、地下水（井戸水）を利用して、「多少は経費削減ができた」と回答した事業所が多い結果になりました。

●水道水以外の水を利用することによる経費削減状況（回答者数 9）



●水道水以外の水を利用することによる経費削減状況（利用している水の種類別）

	回答者数	大幅な経費削減ができた	多少は経費削減ができた	あまり変わらなかった
地下水（井戸水）	6	-	6	-
工業用水	2	1	1	-
その他	1	-	-	1

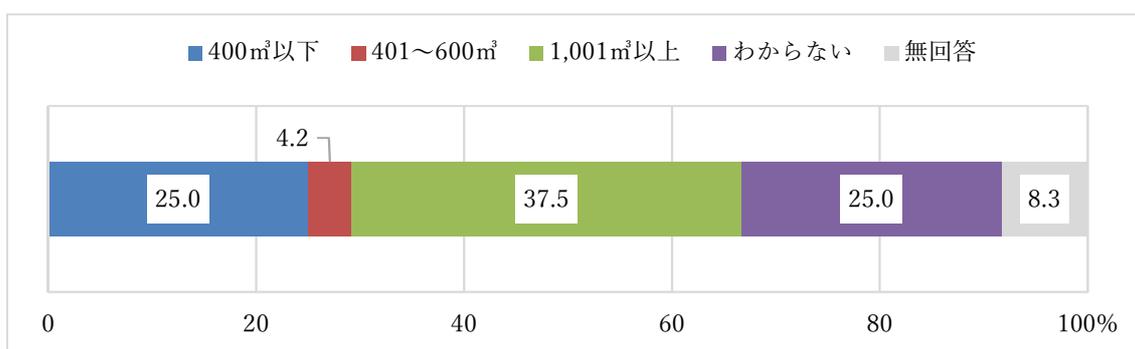
※サンプル数が少ないため参考値とします。

問2-3 水道水以外の水の使用量

問2で水道水以外を主に利用していると回答した事業所の水道水以外の水の使用量は、「1,001 m³以上」が37.5%と最も多く、次いで「400 m³以下」と「わからない」が25.0%で同率でした。「601～750 m³」、「751～1,000 m³」は回答がありませんでした。

利用している水の種類別にみると、工業用水や地下水（井戸水）は「1,001 m³以上」と多く利用されている結果になりました。

●水道水以外の水の使用量（回答者数 24）



●水道水以外の水の使用量（利用している水の種類別）

	回答者数	400 m ³ 以下	401～600 m ³	1,001 m ³ 以上	わからない
地下水（井戸水）	6	2	1	3	-
雨水	1	-	-	-	1
工業用水	5	-	-	5	-
ウォーターサーバーの水	8	4	-	1	3
その他	2	-	-	-	2

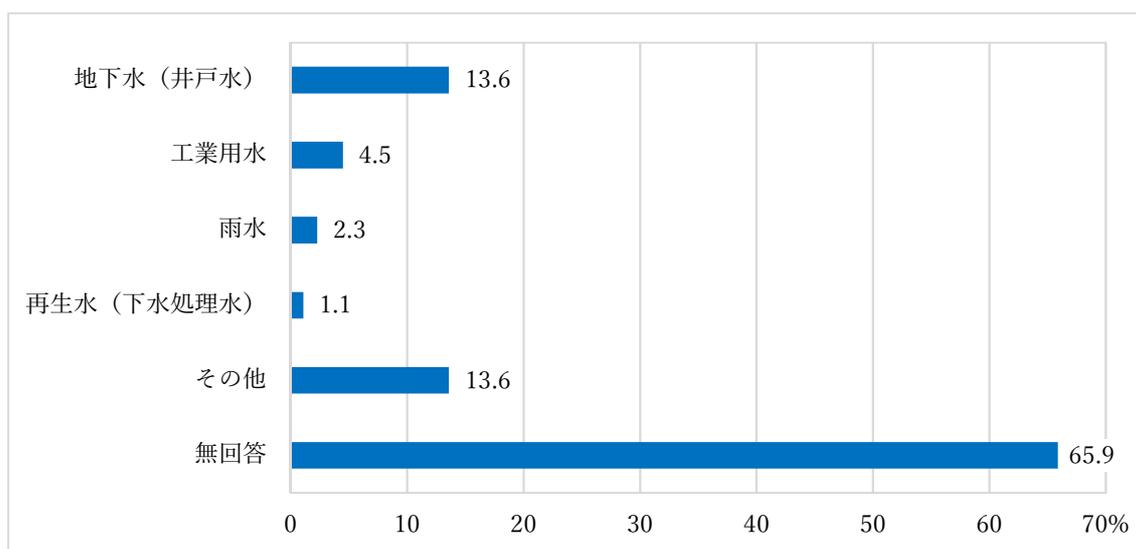
※サンプル数が少ないため参考値とします。

問3 利用を検討している水資源（複数回答）

利用を検討している水資源は「地下水（井戸水）」が13.6%と最も多く、次いで「工業用水」（4.5%）、「雨水」（2.3%）となっています。その他として「特にない」（11件）、「ウォーターサーバーの水」（1件）などの意見がありました。

業種別にみると、医療機関・福祉施設、工場（食品加工除く）は「地下水（井戸水）」の利用を検討している事業所が多い結果になりました。

●利用を検討している水資源（回答者数 88）



●利用を検討している水資源（業種別）

	回答者数	地下水（井戸水）	雨水	再生水（下水処理水）	工業用水	その他
教育施設	2	-	1	1	-	-
医療機関・福祉施設	12	6	1	-	1	4
卸・小売業	4	1	-	-	-	3
事務所・事業所	1	-	-	-	-	1
宿泊施設	1	-	-	-	-	1
工場（食品加工）	3	2	-	-	1	-
工場（食品加工除く）	5	3	-	-	1	2
その他	2	-	-	-	1	1

※「飲食業」と「文化・スポーツ・娯楽施設」は回答がないため除いています。

※サンプル数が少ないため参考値とします。

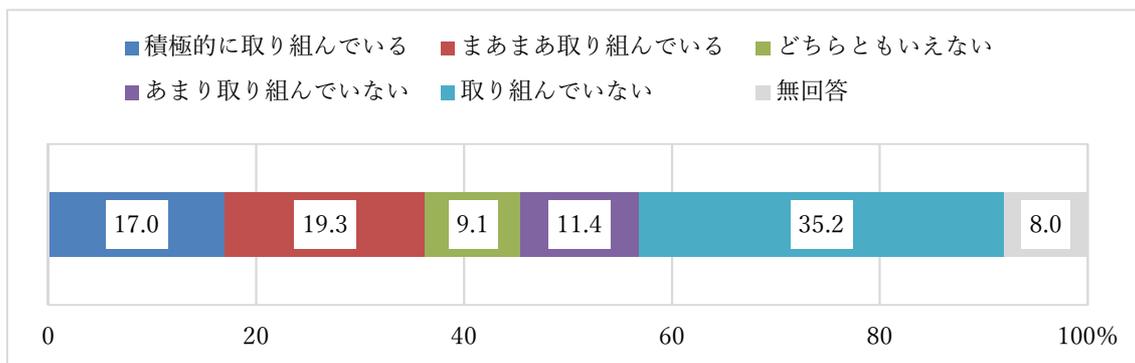
3 水の使用について

問4 節水への取組み（それぞれ1つ）

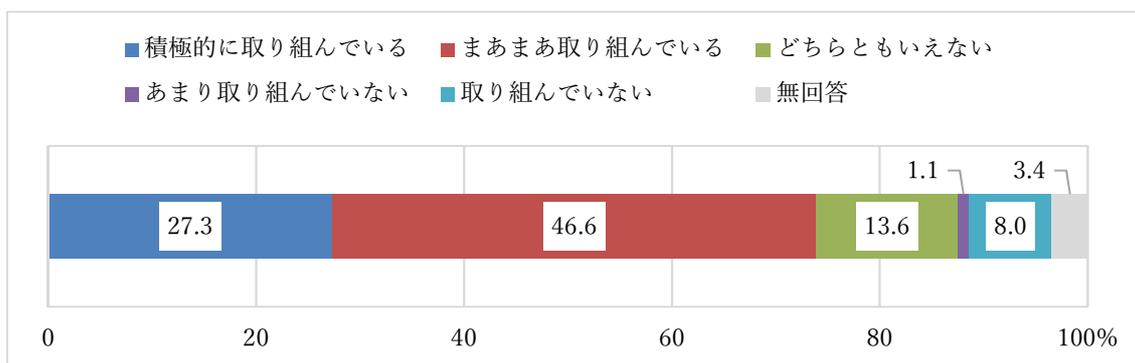
節水への取組みについて、「漏水の防止（点検・修繕）」と「節水の呼びかけ（社内・社外問わず）」は取り組んでいる事業所が多く、「再生水の利用・循環利用」と「地下水の利用」は取り組んでいる事業所が少ない結果になりました。

「節水型機器の導入」は取り組んでいる（「積極的に取り組んでいる」＋「まあまあ取り組んでいる」）事業所が36.3%で、取り組んでいない（「あまり取り組んでいない」＋「取り組んでいない」）事業所が46.6%と、取り組んでいない事業所がやや多い結果になりました。

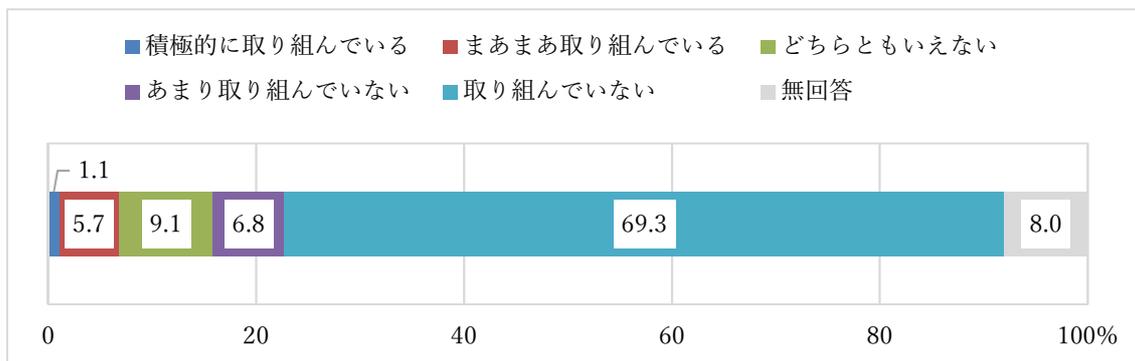
●節水型機器の導入（回答者数 88）



●漏水の防止（点検・修繕）（回答者数 88）



●再生水の利用・循環利用（回答者数 88）



●地下水の利用（回答者数 88）



●節水の呼びかけ（社内・社外問わず）（回答者数 88）



問5 水道の使用状況

最近2ヶ月の水道の使用状況は「800 m³以下」が26.1%と最も多く、次いで「801～1,200 m³」と「2,001 m³」が20.5%で同率でした。

業種別にみると、医療機関・福祉施設では「801～1,200 m³」と回答した事業所が多く、工場（食品加工除く）では「800 m³以下」と回答した事業所が多くなりました。

●水道の使用状況（回答者数 88）



●水道の使用状況（事業所別）

	回答者数	800 m ³ 以下	801～1,200 m ³	1,201～1,500 m ³	1,501～2,000 m ³	2,001 m ³ 以上
教育施設	2	1	1	-	-	-
医療機関・福祉施設	29	7	8	4	3	7
卸・小売業	6	-	2	-	-	4
飲食業	1	1	-	-	-	-
事務所・事業所	6	3	1	-	2	-
宿泊施設	4	-	1	-	1	2
文化・スポーツ・娯楽施設	4	2	1	-	-	1
工場（食品加工）	4	2	-	-	-	2
工場（食品加工除く）	14	7	4	2	1	-
その他	4	-	-	1	1	2

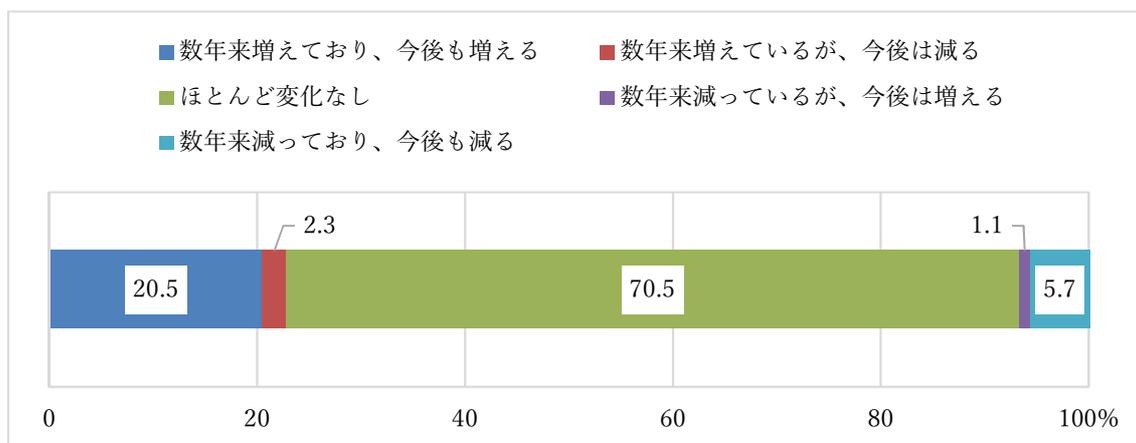
※サンプル数が少ないため参考値とします。

問6 使用水量の傾向

使用水量は「ほとんど変化なし」が70.5%と最も多く、次いで「数年来増えており、今後も増える」(20.5%)、「数年来減っており、今後も減る」(5.7%)となっています。

業種別にみると、医療機関・福祉施設と工場（食品加工除く）で「数年来増えており、今後も増える」と回答した事業所が多い結果になりました。

●使用水量の傾向（回答者数88）



●使用水量の傾向（業種別）

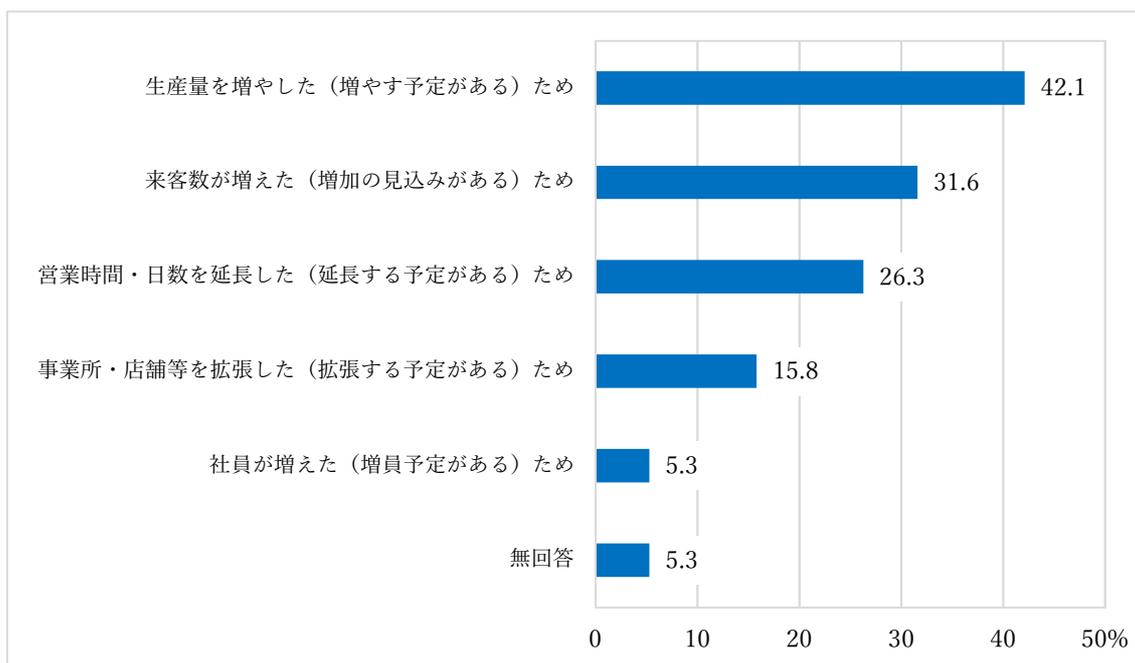
	回答者数	数年来増えており、今後も増える	数年来増えているが、今後は減る	ほとんど変化なし	数年来減っているが、今後は増える	数年来減っており、今後も減る
教育施設	3	1	-	2	-	-
医療機関・福祉施設	39	6	-	32	-	1
卸・小売業	7	3	-	4	-	-
飲食業	1	-	-	1	-	-
事務所・事業所	6	-	-	5	-	1
宿泊施設	4	-	-	2	1	1
文化・スポーツ・娯楽施設	4	1	-	3	-	-
工場（食品加工）	4	1	-	3	-	-
工場（食品加工除く）	15	5	2	7	-	1
その他	4	-	-	3	-	1

※サンプル数が少ないため参考値とします。

問6-1 今後の使用水量の増加理由（複数回答）

問6で今後使用水量が増える傾向にあると回答した事業所の理由は、「生産量を増やした（増やす予定がある）ため」が42.1%と最も多く、次いで「来客数が増えた（増加の見込みがある）ため」（31.6%）となっています。「地下水や雨水などの利用をやめた（やめる予定がある）ため」と「その他」は回答がありませんでした。

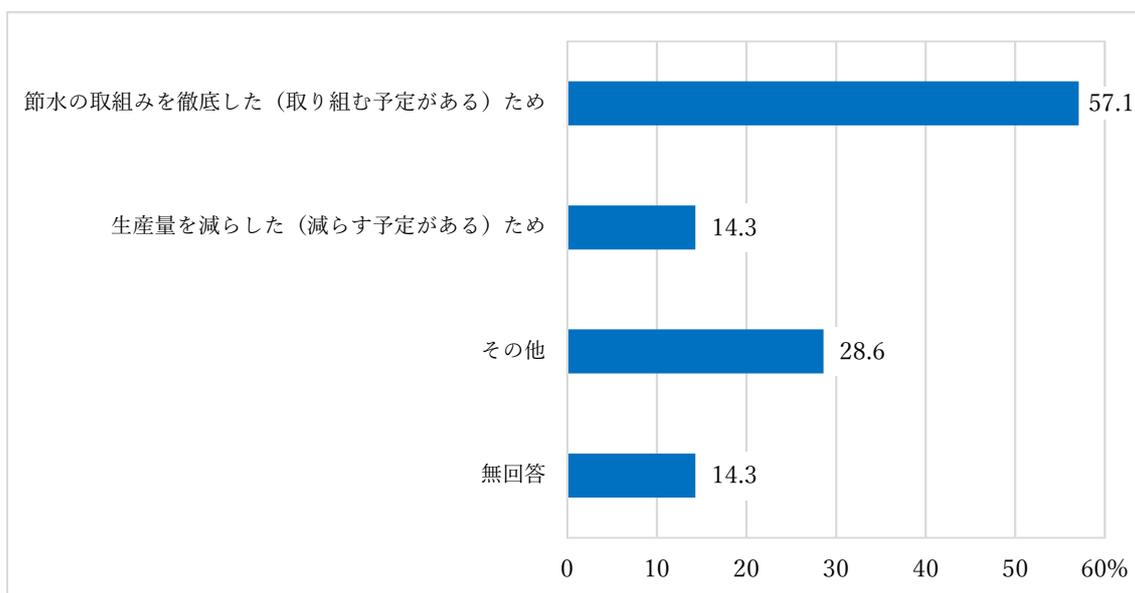
●今後の使用水量の増加理由（回答者数 19）



問6-2 今後の使用水量の減少理由（複数回答）

問6で今後使用水量が減る傾向にあると回答した事業所の理由は、「節水の取組みを徹底した（取り組む予定がある）ため」が57.1%と最も多く、次いで「生産量を減らした（減らす予定がある）ため」（14.3%）となっています。「事業所・店舗等を縮小した（縮小する予定がある）ため」、「営業時間・日数を短縮した（短縮する予定がある）ため」、「社員が減った（減員予定がある）ため」、「来客数が減った（減少が予想される）ため」、「地下水や雨水などを利用した（利用予定がある）ため」は回答がありませんでした。

●今後の使用水量の減少理由（回答者数7）

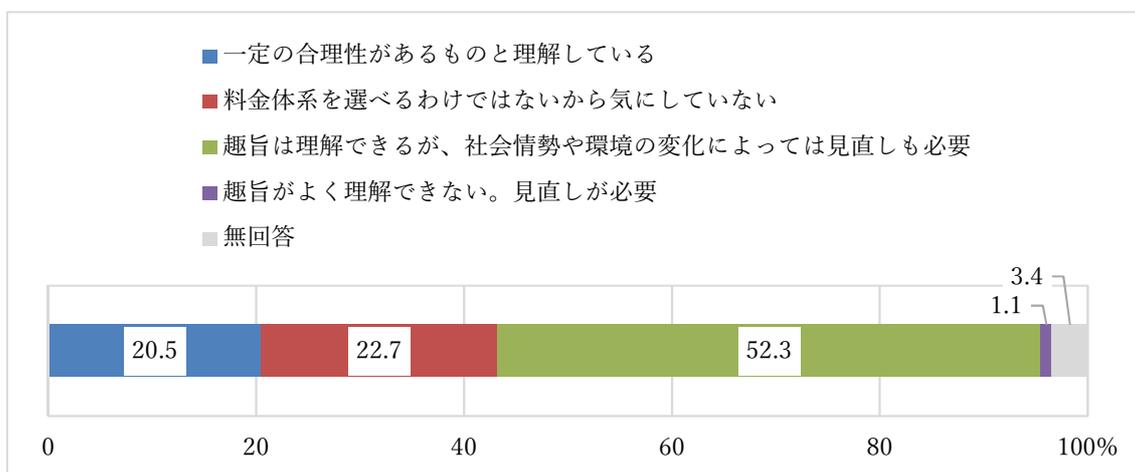


問7 料金制度（逦増型料金）への見解

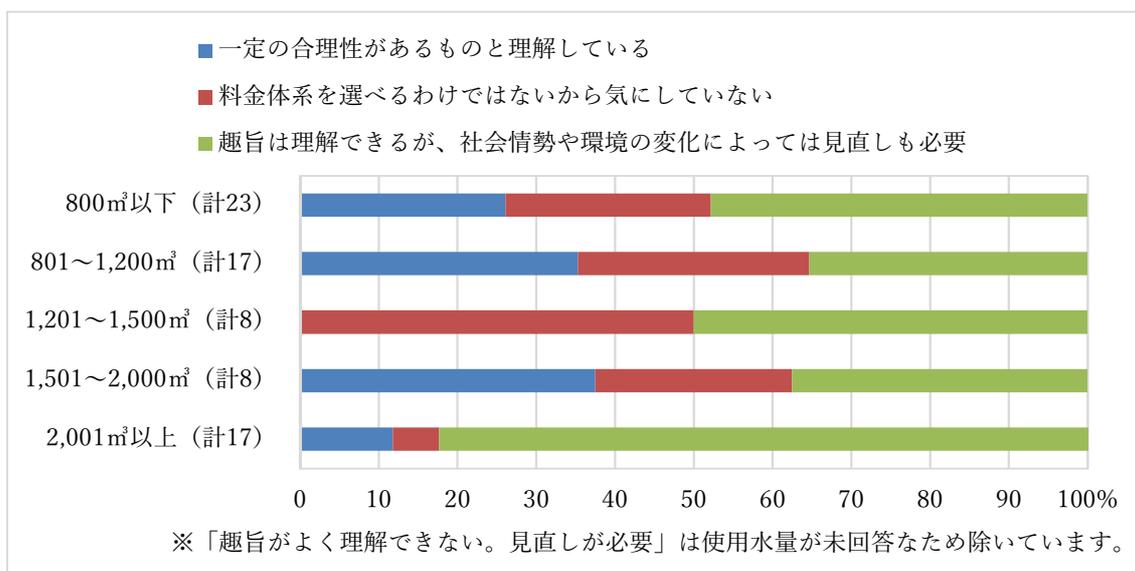
川口市では、節水を促し大口利用を抑制するという観点から、使用水量が増加するほど料金単価が高くなる料金制度（逦増型料金）を採用しています。このような制度の仕組みについて、「趣旨は理解できるが、社会情勢や環境の変化によっては見直しも必要」が52.3%と最も多く、次いで「料金体系を選べるわけではないから気にしていない」(22.7%)、「一定の合理性があるものと理解している」(20.5%)となっています。「その他」は回答がありませんでした。

使用水量別にみると、2,001 m³以上で「趣旨は理解できるが、社会情勢や環境の変化によっては見直しも必要」と回答した事業所の割合が8割を超えています。

●料金制度（逦増型料金）への見解（回答者数 88）



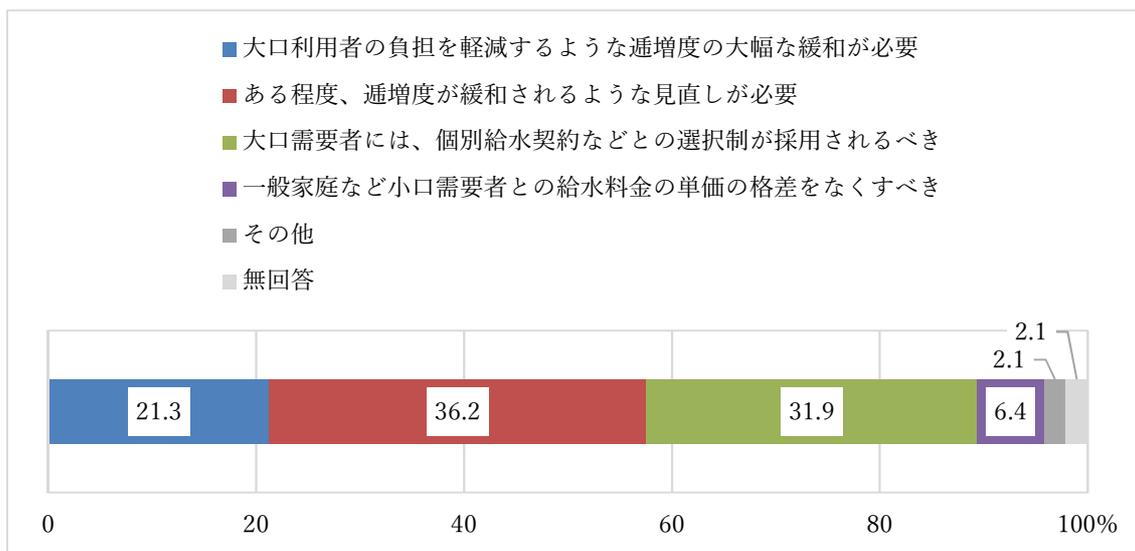
●料金制度（逦増型料金）への見解（使用水量別）



問7-1 必要と考える見直し内容

問7で料金制度（逦増型料金）の見直しが必要と回答した事業所が、考える見直し内容は、「ある程度、逦増度が緩和されるような見直しが必要」が36.2%と最も多く、次いで「大口需要者には、個別給水契約などとの選択制が採用されるべき」（31.9%）、「大口利用者の負担を軽減するような逦増度の大幅な緩和が必要」（21.3%）となっています。

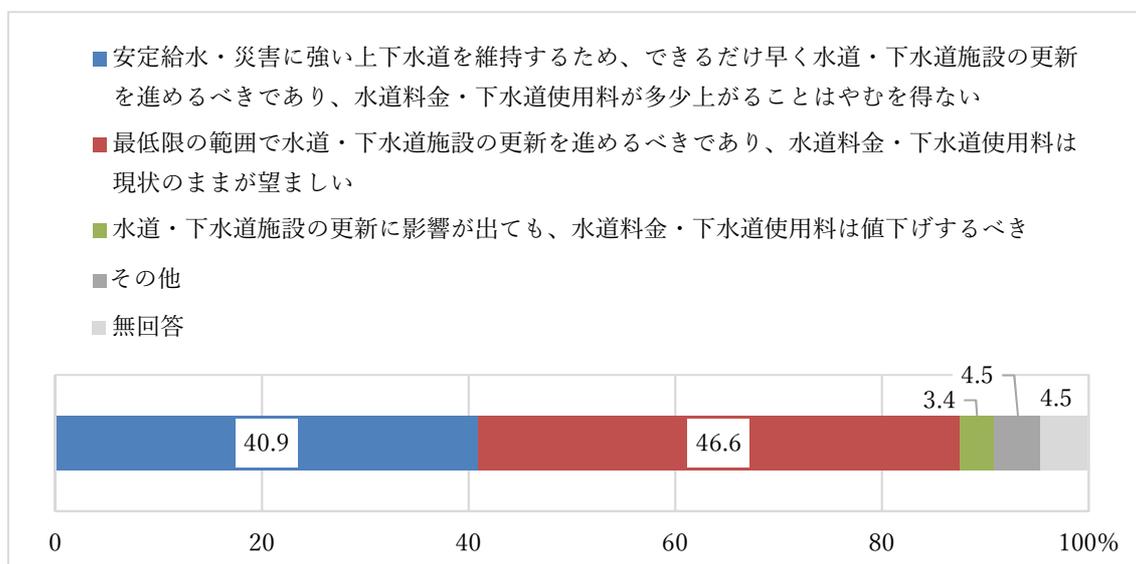
●必要と考える見直し内容（回答者数47）



問8 水道・下水道施設の更新と水道料金・下水道使用料への見解

上下水道局では、経営の合理化や効率化を図るなどの経営努力を行っていますが、水道管や浄配水場などの水道施設のほか、下水道の管きょやポンプ場の老朽化が進行しその更新費用は年々増加していきます。水道・下水道施設の更新と水道料金・下水道使用料についての考えとして、「最低限の範囲で水道・下水道施設の更新を進めるべきであり、水道料金・下水道使用料は現状のままが望ましい」が46.6%と最も多く、次いで「安定給水・災害に強い上下水道を維持するため、できるだけ早く水道・下水道施設の更新を進めるべきであり、水道料金・下水道使用料が多少上がることはやむを得ない」(40.9%)となっています。

●水道・下水道施設の更新と水道料金・下水道使用料への見解（回答者数 88）



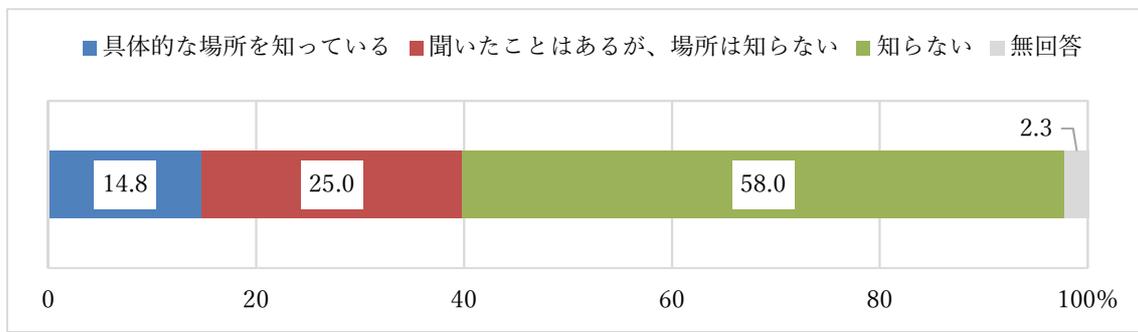
4 災害時・非常時について

問9 a 指定給水所の認知

災害時に水を配る指定給水所について、「知らない」が58.0%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが、場所は知らない」(25.0%)、「具体的な場所を知っている」(14.8%)となっています。

業種別にみると、医療機関・福祉施設、卸・小売業、事務所・事業所で「具体的な場所を知っている」と回答した事業所がありました。

●指定給水所の認知（回答者数 88）



●指定給水所の認知（業種別）

	回答者数	具体的な場所を知っている	聞いたことはあるが、場所は知らない	知らない
教育施設	3	-	1	2
医療機関・福祉施設	38	9	9	20
卸・小売業	7	2	-	5
飲食業	1	-	-	1
事務所・事業所	6	2	2	2
宿泊施設	4	-	-	4
文化・スポーツ・娯楽施設	4	-	2	2
工場（食品加工）	4	-	1	3
工場（食品加工除く）	14	-	4	10
その他	4	-	2	2

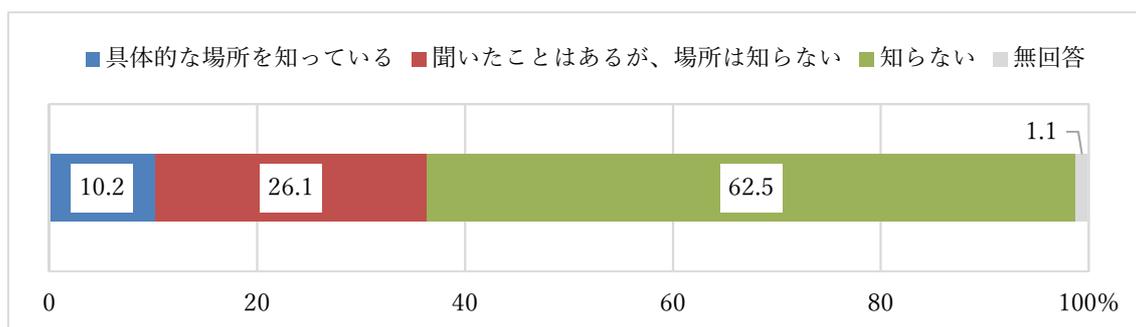
※サンプル数が少ないため参考値とします。

問9 b 災害用マンホールトイレの認知

災害用マンホールトイレの設置場所については、「知らない」が62.5%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが、場所は知らない」(26.1%)、「具体的な場所を知っている」(10.2%)となっています。

業種別にみると、医療機関・福祉施設、卸・小売業、事務所・事業所、その他で「具体的な場所を知っている」と回答した事業所がありました。

●災害用マンホールトイレの認知（回答者数 88）



●災害用マンホールトイレの認知（業種別）

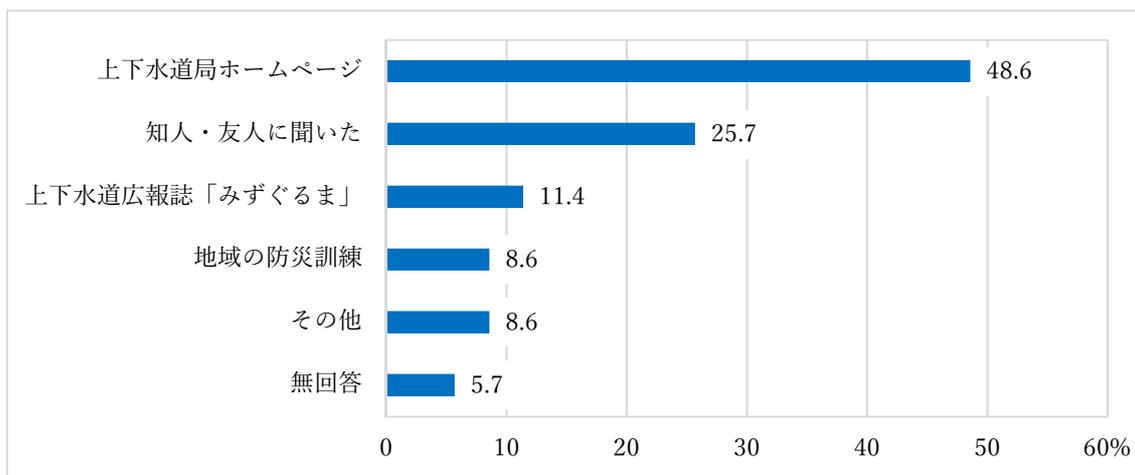
業種	回答者数	具体的な場所を知っている	聞いたことはあるが、場所は知らない	知らない
教育施設	3	-	2	1
医療機関・福祉施設	39	5	9	25
卸・小売業	7	1	-	6
飲食業	1	-	-	1
事務所・事業所	6	2	1	3
宿泊施設	4	-	-	4
文化・スポーツ・娯楽施設	4	-	3	1
工場（食品加工）	4	-	-	4
工場（食品加工除く）	15	-	6	9
その他	4	1	2	1

※サンプル数が少ないため参考値とします。

問9-1 指定給水所を知った手段（複数回答）

問9aで指定給水所について、「具体的な場所を知っている」、「聞いたことはあるが、場所は知らない」と回答した事業所について、「上下水道局ホームページ」で知った事業所が48.6%と最も多くなっています。「上下水道局イベント」は回答がありませんでした。

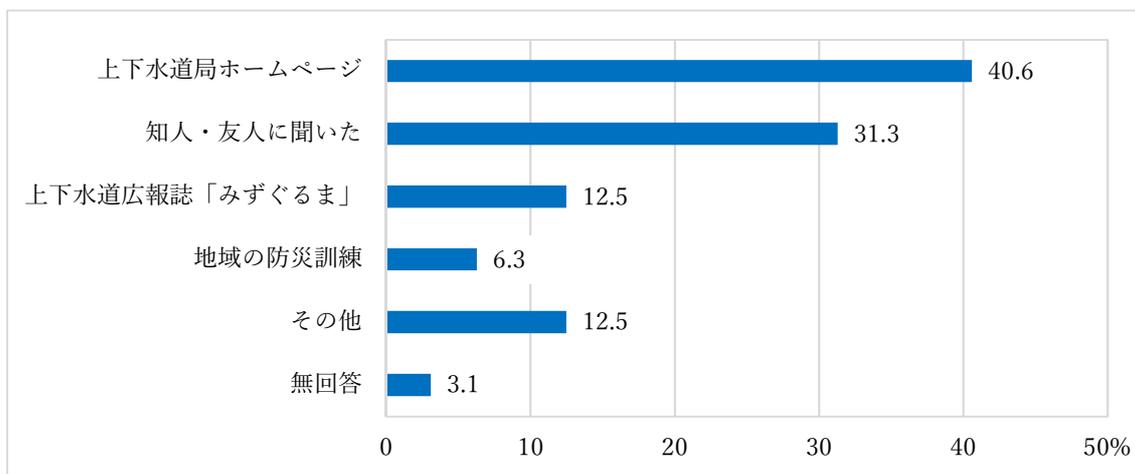
●指定給水所を知った手段（回答者数 35）



問9-2 災害用マンホールトイレを知った手段（複数回答）

問9bで災害用マンホールトイレについて、「具体的な場所を知っている」、「聞いたことはあるが、場所は知らない」と回答した事業所について、「上下水道局ホームページ」で知った事業所が40.6%と最も多くなっています。「上下水道局イベント」は回答がありませんでした。

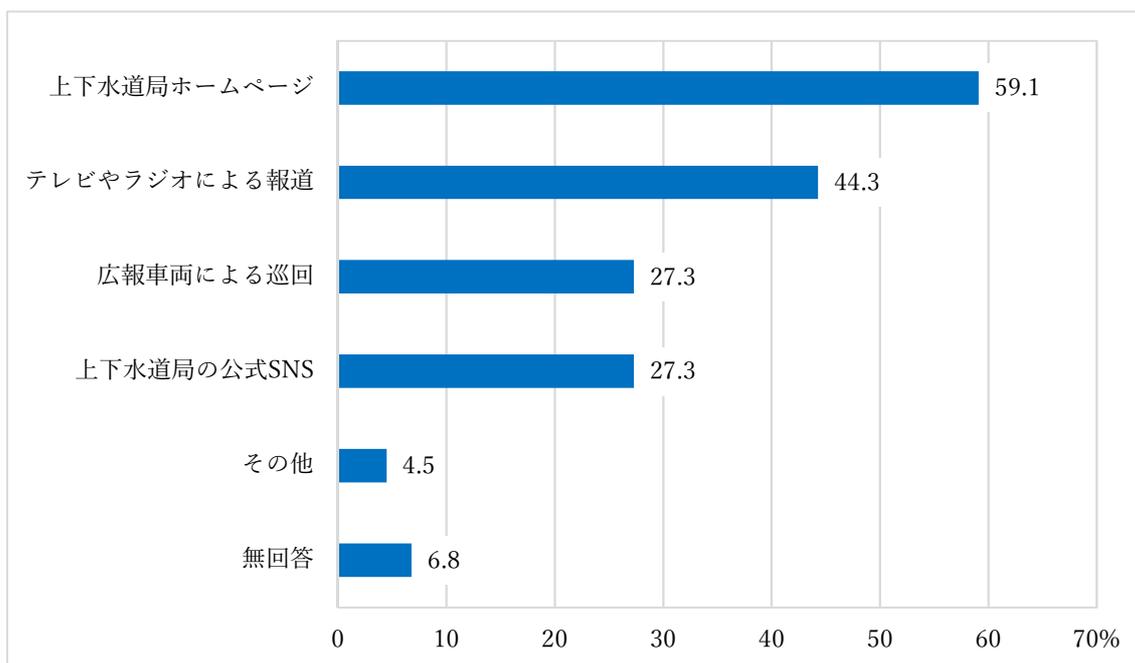
●災害用マンホールトイレを知った手段（回答者数 32）



問 10 災害時・非常時の情報収集手段（複数回答）

災害時・非常時に指定給水所や災害用マンホールトイレに関する情報を得るために利用したい手段として、「上下水道局ホームページ」が59.1%と最も多く、次いで「テレビやラジオによる報道」(44.3%)、「広報車両による巡回」と「上下水道局の公式 SNS」が同率(27.3%)となっています。

●災害時・非常時の情報収集手段（回答者数 88）

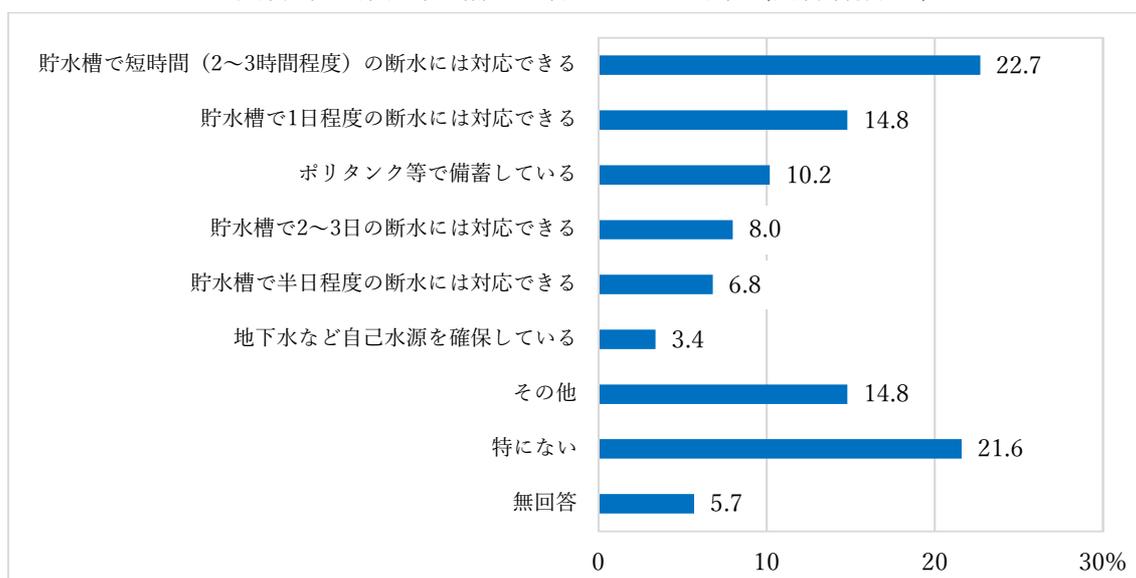


問 1 1 災害時・断水時に備えて行っている対策（複数回答）

災害時・断水時に備えて行っている対策は、「貯水槽で短時間（2～3時間程度）の断水には対応できる」が22.7%と最も多く、次いで「貯水槽で1日程度の断水には対応できる」（14.8%）、「ポリタンク等で備蓄している」（10.2%）となっています。

業種別にみると、医療機関・福祉施設で2～3日の断水に対応できると回答した事業所が一定数ありました。

●災害時・断水時に備えて行っている対策（回答者数 88）



●災害時・断水時に備えて行っている対策（業種別、項目名は短縮しています）

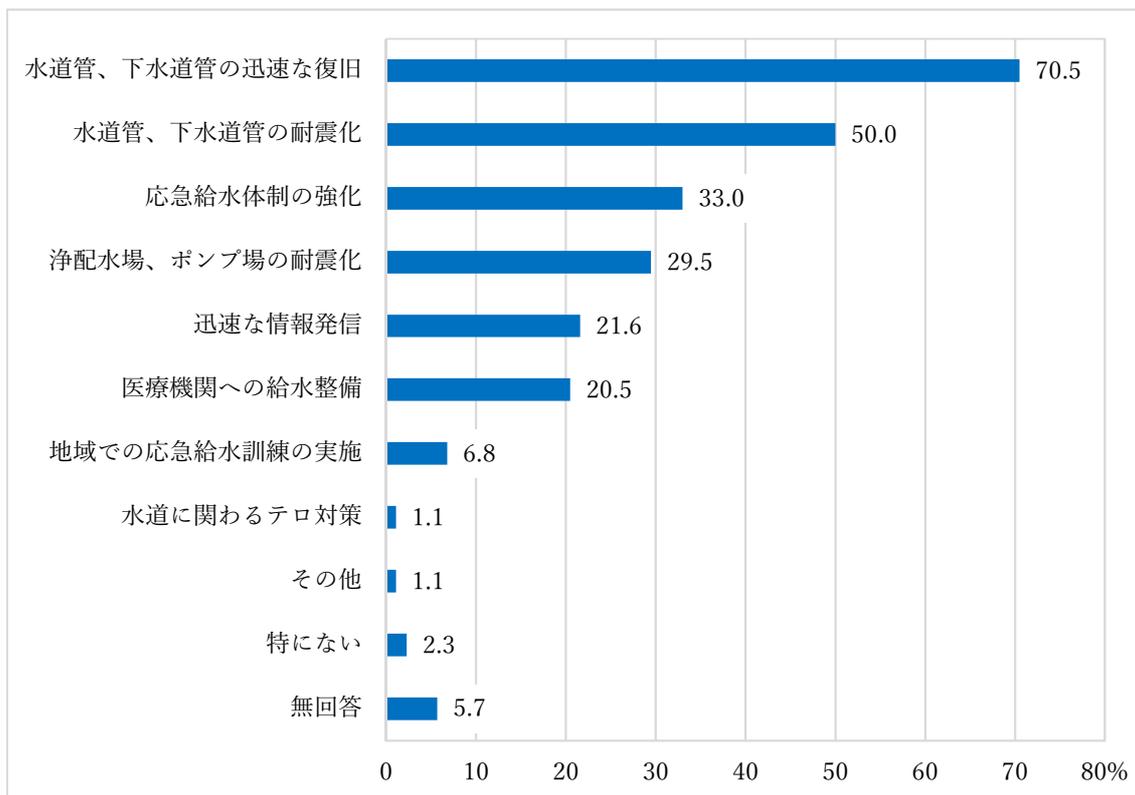
	回答者数	貯水槽				ポリタンク等	自己水源	その他
		短時間	半日	1日	2～3日			
教育施設	3	-	-	-	-	-	-	-
医療機関・福祉施設	34	9	2	5	6	5	2	8
卸・小売業	7	2	-	1	-	1	1	1
飲食業	1	-	-	-	-	-	-	-
事務所・事業所	6	2	-	2	1	-	-	2
宿泊施設	4	1	1	1	-	1	-	-
文化・スポーツ・娯楽施設	4	2	1	1	-	-	-	-
工場（食品加工）	4	1	-	1	-	-	-	-
工場（食品加工除く）	15	3	-	1	-	-	-	2
その他	4	-	2	1	-	1	-	-

※サンプル数が少ないため参考値とします。

問 1 2 災害時・非常時の対策として上下水道局に望むこと（3つまで）

災害時・非常時の対策として上下水道局に望むことは、「水道管、下水道管の迅速な復旧」が70.5%と最も多く、次いで「水道管、下水道管の耐震化」（50.0%）、「応急給水体制の強化」（33.0%）、「浄配水場、ポンプ場の耐震化」（29.5%）となっています。

●災害時・非常時の対策として上下水道局に望むこと（回答者数 88）



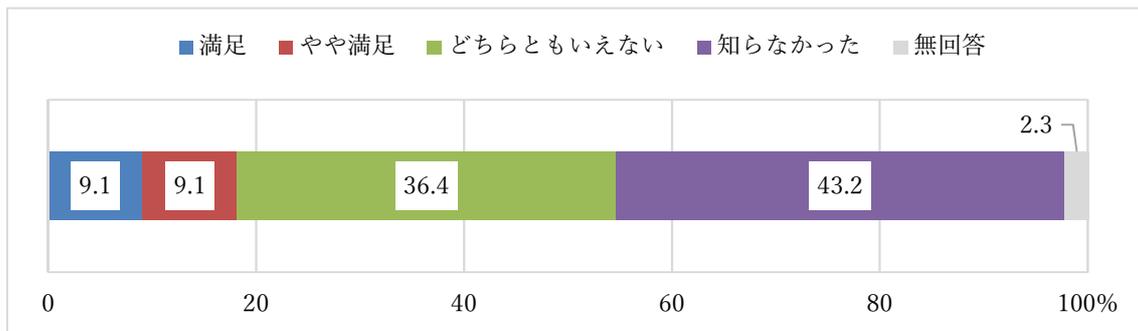
5 上下水道局の取組みについて

問13 上下水道局ホームページでの情報発信の認知と満足度

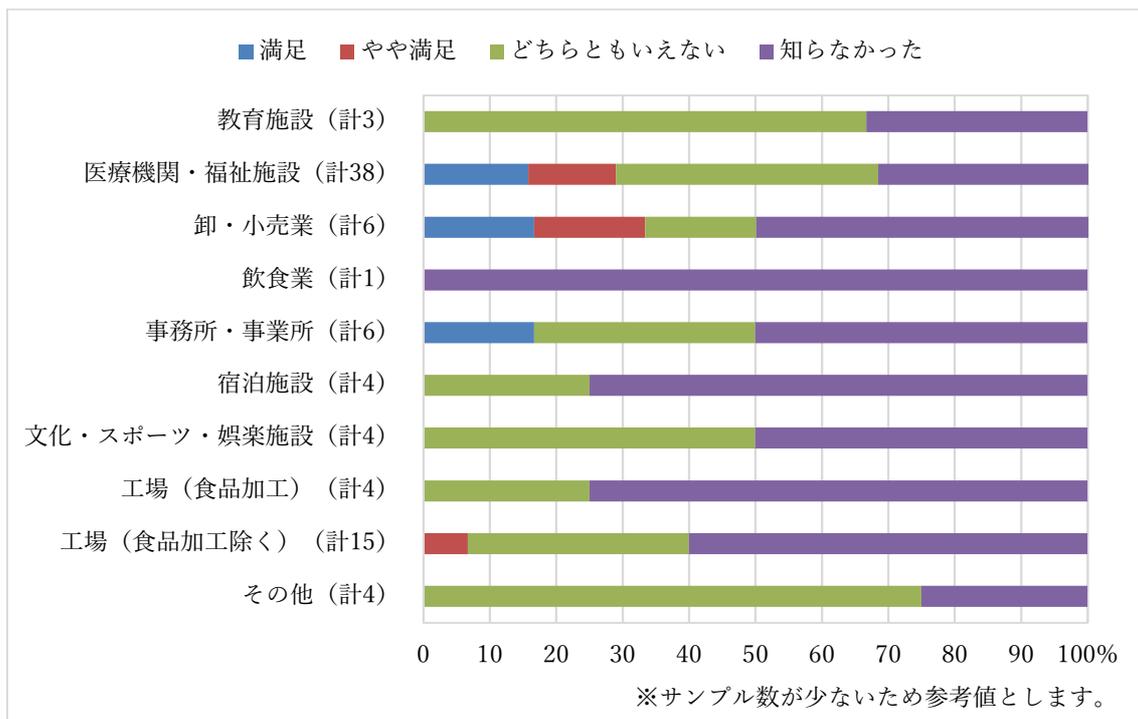
上下水道局のホームページ上で、水質検査結果や上下水道工事情報など上下水道局の取組みについて情報発信していることについて、「知らなかった」と回答した事業所の割合が43.2%と最も多く、次いで「どちらともいえない」(36.4%)となっています。「やや不満」と「不満」は回答がありませんでした。

業種別にみると、医療機関・福祉施設と卸・小売業で満足(「満足」+「やや満足」と回答した事業所の割合が高い結果になりました。

●上下水道局ホームページでの情報発信の認知と満足度(回答者数88)



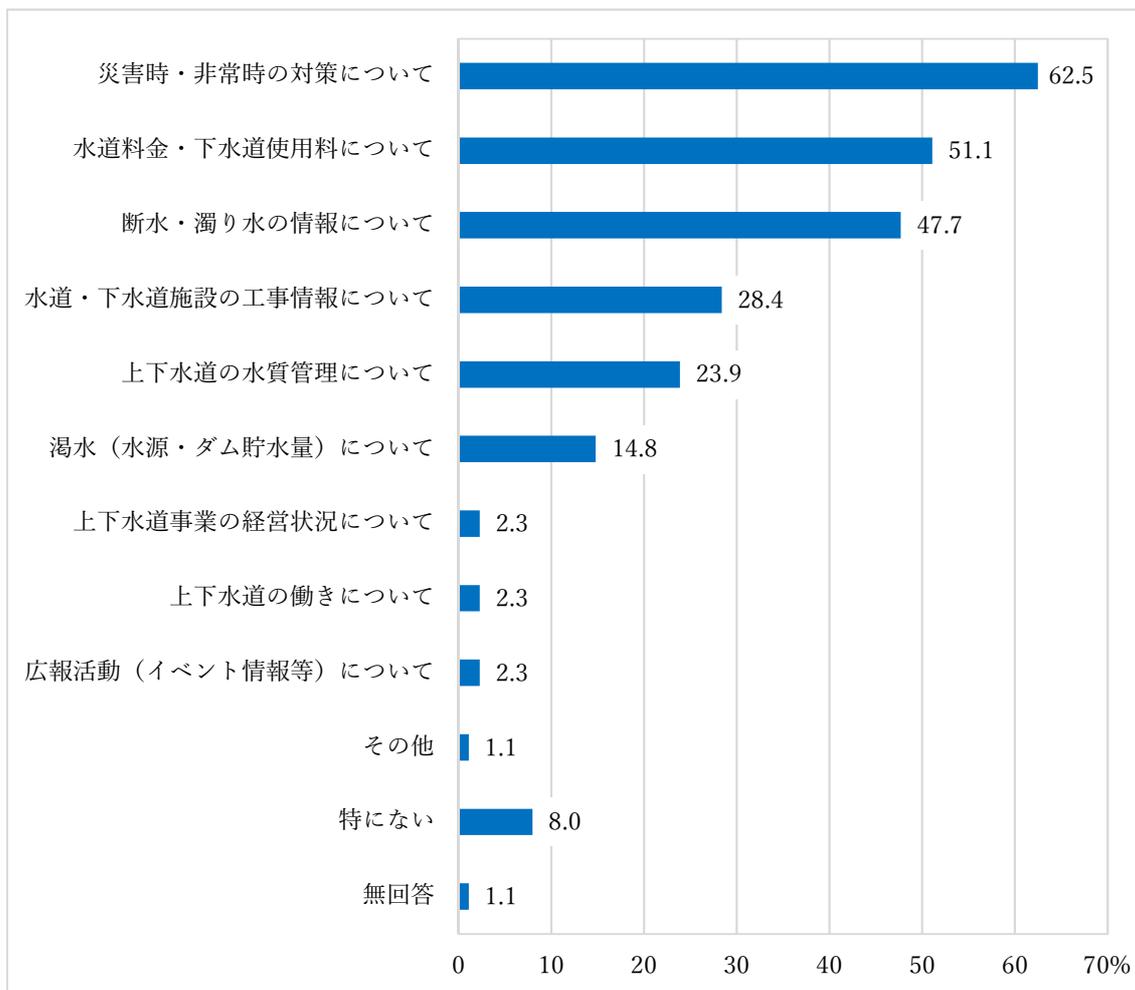
●上下水道局ホームページでの情報発信の認知と満足度(業種別)



問 1 4 提供を望む上下水道事業の情報（複数回答）

事業所として知りたい上下水道の情報は、「災害時・非常時の対策について」が 62.5%と最も多く、次いで「水道料金・下水道使用料について」（51.1%）、「断水・濁り水の情報について」（47.7%）となっています。

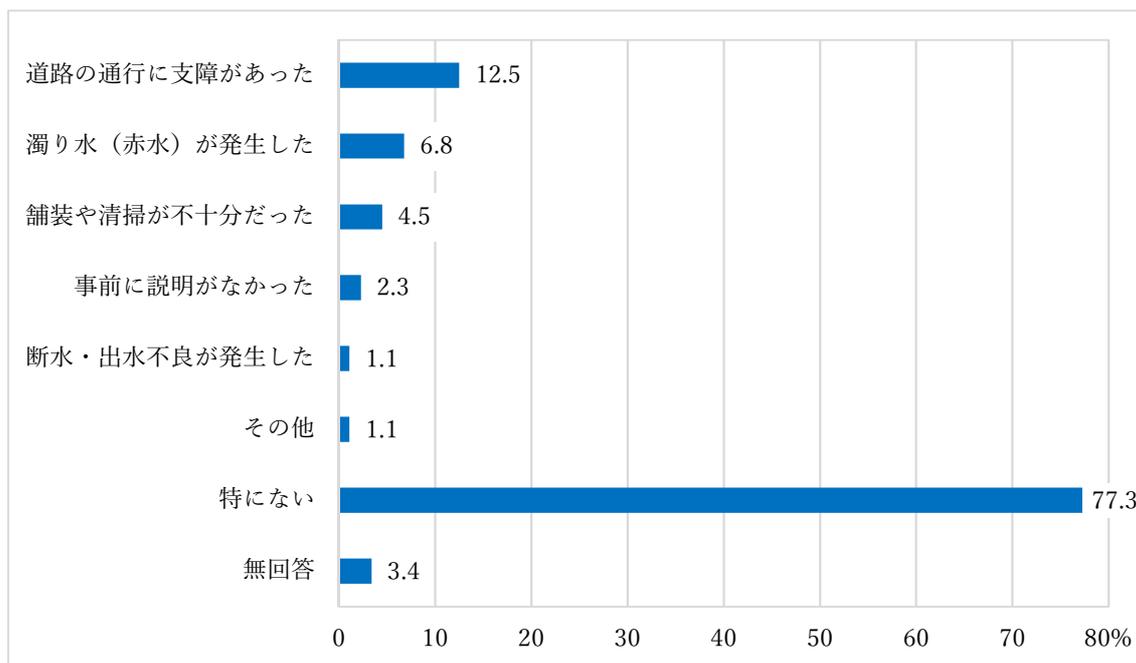
●提供を望む上下水道事業の情報（回答者数 88）



問 1 5 上下水道局の工事で不満に思ったこと（複数回答）

上下水道局の工事などで不満に思ったことは、「特にない」が77.3%と最も多く、次いで「道路の通行に支障があった」（12.5%）、「濁り水（赤水）が発生した」（6.8%）となっています。「騒音や振動がひどかった」は回答がありませんでした。

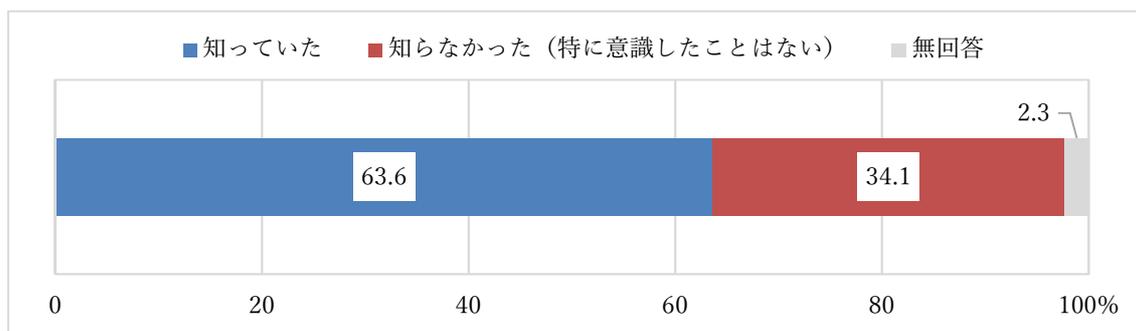
●上下水道局の工事で不満に思ったこと（回答者数 88）



問 1 6 水道事業が独立採算制であることの認知

水道事業は税金ではなく、水道料金を主な財源として運営されていること（独立採算制であること）を「知っていた」と回答した事業所の割合は63.6%、「知らなかった（特に意識したことはない）」と回答した事業所の割合は34.1%でした。

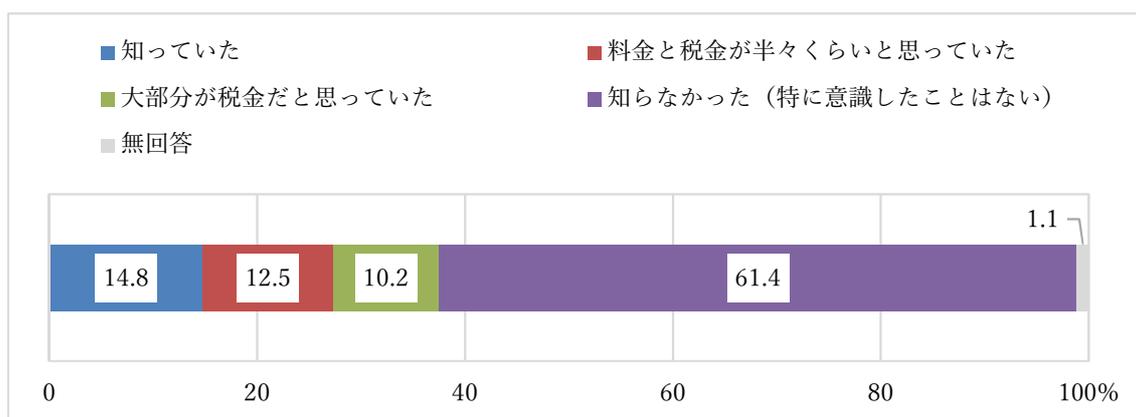
●水道事業が独立採算制であることの認知（回答者数 88）



問 1 7 下水道使用料の不足分を公費でまかなっていることの認知

下水道事業のうち、雨水処理の経費は公費（税金）でまかない、汚水処理の経費は排出した汚水の量に応じて下水道使用料でまかなうという原則がありますが、下水道使用料で足りない分を公費（税金）でまかなっていることについて、「知らなかった（特に意識したことはない）」と回答した事業所の割合が61.4%と最も高くなっています。

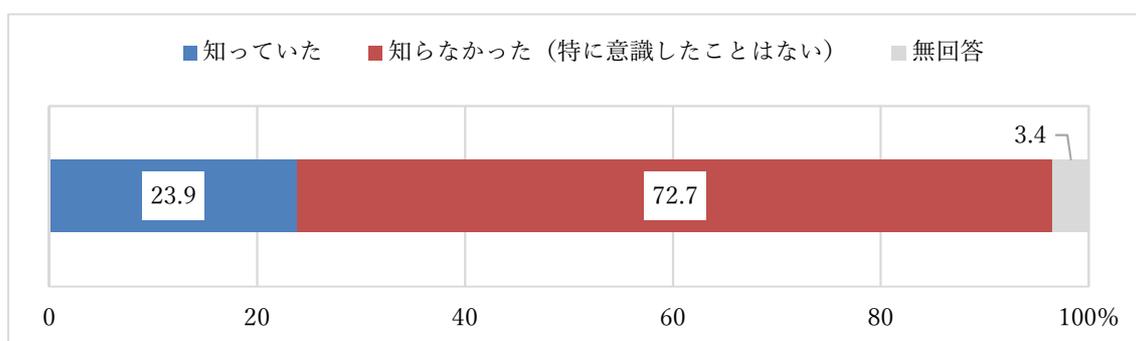
●下水道使用料の不足分を公費でまかなっていることの認知（回答者数 88）



問 1 8 水道・下水道施設の老朽化状況の認知

水道や下水道の施設は老朽化が進んでおり、市内では令和4年度末時点で、布設から4、50年を経過し、法定耐用年数を超えた水道管が全体の25.2%、下水道管が20.0%にもなります。これだけの施設が老朽化していることについて、「知っていた」と回答した事業所の割合は23.9%、「知らなかった（特に意識したことはない）」と回答した事業所の割合は72.7%と、知らなかった（特に意識したことはない）事業所の方が多く結果になりました。

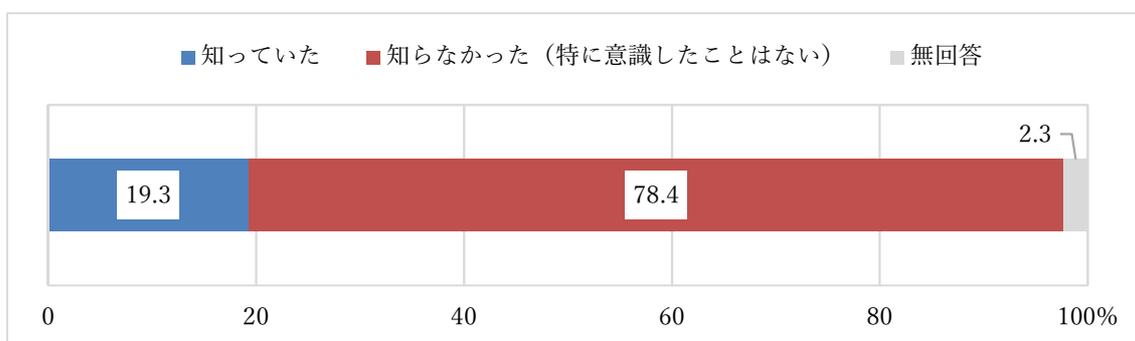
●水道・下水道施設の老朽化状況の認知（回答者数 88）



問 1 9 計画に基づき更新工事を進めていることの認知

上下水道局では、施設更新基本計画や下水道ストックマネジメント計画を策定し、老朽化した施設の中でも損傷の激しい施設から重点的に更新を行うなど計画的・効率的な改善に努めています。施設の更新には莫大な費用がかかるため、このような計画に基づき更新工事を進めていることについて、「知っていた」と回答した事業所の割合は19.3%、「知らなかった（特に意識したことはない）」と回答した事業所の割合は78.4%と、知らなかった（特に意識したことはない）事業所の方が多結果になりました。

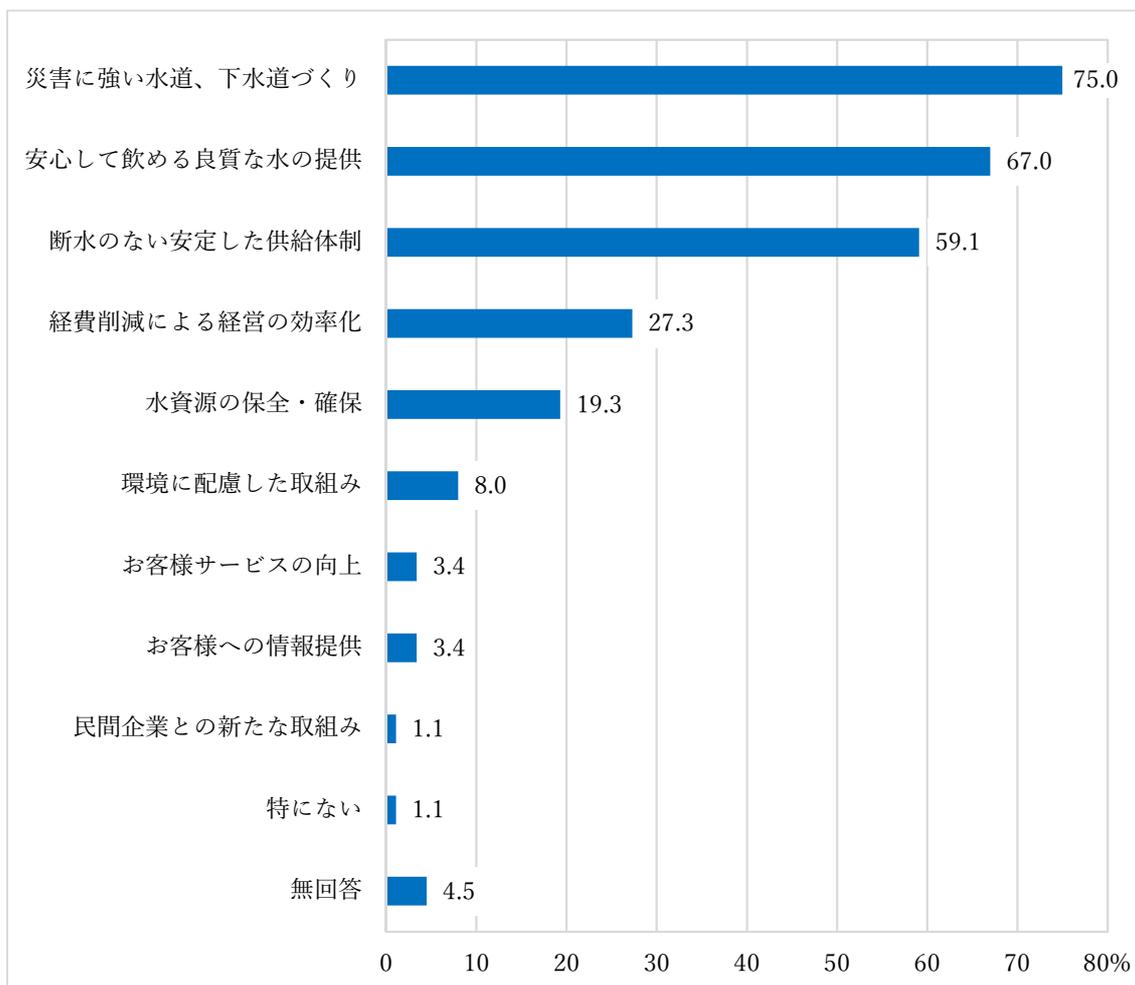
●計画に基づき更新工事を進めていることの認知（回答者数 88）



問20 上下水道局の取組みにおいて重視すべきこと（3つまで）

今後の上下水道局の取組みにおいて、重視すべきと考えることは、「災害に強い水道、下水道づくり」が75.0%と最も多く、次いで「安心して飲める良質な水の提供」(67.0%)、「断水のない安定した供給体制」(59.1%)となっています。「国際的な支援」、「上下水道学習の充実」、「その他」は回答がありませんでした。

●上下水道局の取組みにおいて重視すべきこと（回答者数 88）

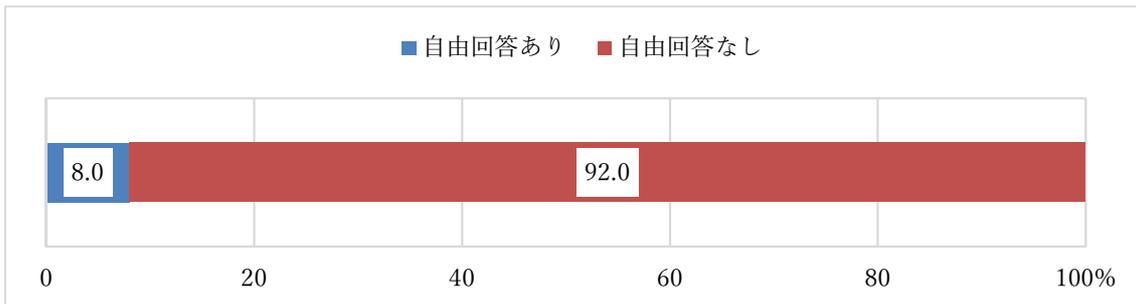


6 自由記入欄

問2 1 上下水道局へのご意見・ご要望

上下水道局へご意見・ご要望として、7事業所から自由回答がありました。

●上下水道局へのご意見・ご要望（回答者数 88）



●上下水道局へのご意見・ご要望

内容
<ul style="list-style-type: none">・水の確保は生命に関わる問題です。安全・安心な生活が継続できますよう、よろしくをお願いします。・水道水の塩素濃度が当施設で利用している電気温水器の老朽化と関係するため、定期的な測定、調整をお願いします。・道路の冠水について、対策をお願いします。・日中の給水圧が低く、業務に支障をきたしています。水量が多くなると助かります。・生産ラインをストップせざるを得ない状況になってしまうので、濁り水が発生しないようにしていただくとありがたいです。・ホームページの自動計算フォームは、水道料金の算出時に大変お世話になっています。・蛇口から水が出続けていたら警告音等で知らせてくれるシステムがあると良い。

※内容を要約して掲載しています。